

令和 3 年 5 月 24 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17H02582

研究課題名（和文）財務諸表監査の質を巡る規制のあり方についての研究

研究課題名（英文）A Research on Regulating the Quality of a Financial Statement Audit

研究代表者

鳥羽 至英（Toba, Yoshihide）

早稲田大学・総合研究機構・その他（招聘研究員）

研究者番号：90106089

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,190,000円

研究成果の概要（和文）：以下のような新たな研究成果が得られた。第1は、監査プロフェッション（職業監査人と会計士協会）と行政機関がそれぞれ行っている財務諸表監査の質の規制に関して、初めての包括的で体系的な研究結果が得られたこと。第2に、監査の質を捉える視点について、「監査プロフェッション・プロセス」という考え方を提示し、それを構成する各段階を通じて、監査規制についての民間と行政との関係を捉え、かつ、その規制状況について国際的な比較を行ったこと。第三に、わが国の監査規制が抱えている問題点を「論点」という形で提示したこと、第4は、監査規制の研究に関して予想される研究テーマについて、その着眼どころを明らかにしたこと。

研究成果の学術的意義や社会的意義

監査の質の規制の在り方を巡る、監査プロフェッションと行政機関の立ち位置を含む総括的な研究は、内外ともに行われていなかった。主要各国における規制がどのような状況にあるかも、明らかではなかった。今回の研究はそうした意味での「先駆的な研究」である。この研究を通じて、日本の規制状況が、本研究で取り上げた他の6か国とは異なること、とりわけ、監査プロフェッション・プロセスの起点から終点のすべての段階において、行政機関が深く関与しているということも指摘された。この研究領域に関して参考にすべき文献・資料等も示されているので、今回の研究成果の上梓を契機に、この分野の学術的研究が大きく発展することが期待される。

研究成果の概要（英文）： First, we obtained a comprehensive and integrated research observations and conclusions about the regulation on the quality of a financial statement audit. Second, we introduced a new perspective “the audit-profession process” to look at and make a comparative analysis on how professional bodies and regulatory agencies of the 7 countries (U.S.A., England, Germany, Netherlands, Canada, Australia, and Japan) have been regulating the quality of a financial statement audit. Third, we presented examples of important issues to be treated in starting discussions for improving (making changes to) the present system of the audit regulation in Japan. Fourth, we enumerated/explained topics or subjects meaningful to the future research on the audit regulation.

The academic accomplishments we obtained through the 2017-2020 research activities were published as a research monograph entitled “Regulation on the Audit Quality: Audit Profession vs Government” in 2021.

研究分野：会計学

キーワード：audit regulation audit quality audit profession auditing standards professional ethics self regulation definition of auditing governmental regulation

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

(1) アメリカ、英国、ドイツ、そして日本において、上場会社による不正な財務報告がなかなか収まらない。経済社会の構成員は、財務諸表の重要な虚偽表示を看過してしまう監査の質に対して不安を増幅している。財務諸表監査の質は、誰(どこ)が、どのような立場から、どのように規制しているのであろうか。従来は、専門職業団体(会計士協会)が中心となって監査の質を規制していたが、最近では、むしろ国(行政機関)が積極的に関わり始めた。このような新たな傾向が会計先進諸国においてみられる。本研究に至った問題意識としては、こうした監査社会における規制の状況の変化があった。

2. 研究の目的

(1) 本研究は、職業会計士が従事している財務諸表監査の質に対する規制(以下、監査規制と略す)をどのように学術的に捉えたらよいかという問題意識を基礎にして、そのための視座(構図)を明らかにしたうえで、主要会計先進諸国(アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリア、ドイツ、そしてオランダ)と日本における監査規制の状況(規制の特徴)を調査し、最終的には、わが国における監査規制の状況(規制の特徴)とわが国の監査規制が抱えている問題を明らかにすることを目的とした。

(2) 本研究では、監査の質と監査の質に対する規制の関係を、会計先進主要国における監査規制の状況を視野に入れながら、日本における監査規制の型の特徴とそれが抱える問題や将来における監査規制の方向性を模索するとともに、どのような監査規制のあり方が望ましいか、という課題を探究した。

3. 研究の方法

(1) 本研究においては、監査規制を可能な限り学術的に、かつ、国際的な多様性を睨みながら分析を行った。研究の方法は、論文、研究書、および調査対象7か国の専門職業団体の Web site を通じて発信している情報を基礎にした「文献調査」である。研究の全体的構図を、第1部から第3部の3つに分けている。第1部では、監査規制を学術的に捉えるための枠組みを模索し、第2部は、調査対象国の監査規制を捉える共通の視点を明示し、その視点に立って、外国の監査規制の内容と特徴を考究した。第3部では、わが国における監査規制の状況を同様の方法で検討した。その進め方は、以下のとおりである。

(2) 今回の分析の枠組みを扱う第1部についての研究の進め方は、代表者がその叩き台となるべき原稿を作成・提示し、その内容と参考文献の補充等について、各研究分担者と研究協力者(以下、「研究分担者等」)が検討し、原稿を追加・修正していくという形を採った。

(3) 各国の監査規制の現状についての分析を扱う第2部における研究の進め方は、各国の監査規制状況についての分析の視点を共有するため、代表者が「監査プロフェッション・プロセス」という考え方を図示し、その有効性について研究分担者と協力者から意見を求め、確定するという方法をとった。なお、海外調査が必要な場合には、現地へ赴いて情報を得るという方法も加えた。

(4) 調査対象国(7か国)の調査・研究については、研究分担者等に担当国を割り振り、各国状況について叩き台となる原稿を提示してもらい、それを全員で検討するという方法をとった。なお、最後のまとめ方に関しては、「監査プロフェッション・プロセス」を構成するステップごとに、各国の規制状況を説明・分析するという方法をとった。

(5) 第3部では、わが国における規制の状況についての説明と、わが国の監査規制が潜在的に抱えている問題を代表者が指摘・説明し、研究分担者等から意見等を得て、共有できる内容とした。最後に、この分野の研究がますます活発になることを期待して、監査規制に関する研究を行うに際して予想される論点や方向を、研究分担者等各位に自由に示してもらおうという方法を取った。

4. 研究成果

(1) まずは、監査規制のあり方を、理論と国際比較の両面で公表された今回の研究は、おそらく内外でも先駆的研究であったと考えている。事実、研究3年目に入って、イギリスの出版社から今回の研究成果を英語にして公表する予定はないかとの打診があった。今回の研究が契機となって、監査の質をミクロ的な視点からだけでなく、マクロ的な視点から考究する研究に火が付き、これを期待している。監査規制は、非常に重要な現代的な監査研究テーマである。

(2) プロフェッションという用語は、日本語としても使用されているが、規制という観点からすると、欧米の監査プロフェッションとわが国の監査プロフェッションとの間には、その誕生・発展過程において、大きな違いがあった。現在では、いずれの国においても、財務諸表監査は、専門職業団体(会計士協会)と国(行政機関)による“Co-regulation”下にあるが、監査専門職業の独立という点から特徴づけると、欧米の監査規制は基本的には「自己規制」、わが国の監査規制

は行政機関による監督の下での「自主規制」と特徴づけることができる。

(3) 各国の監査規制の現状やその特徴等を比較・分析するうえで、第 部において導入した「監査プロフェッション・プロセス」という考えが非常に有効であったことである。また、この視点を通じて、実証的な監査研究を活発化するうえで、どこに大きな問題があるのかも明らかになった。日本における監査研究環境は十分に整っていない。

(4) 今回の研究を通じて、日本における監査規制の分野において、専門職業団体と行政機関との間の役割分担、専門職業団体の社会的地位の引き上げ、専門職業団体の自立性の強化など、監査の質の強化を、専門職業団体が十分な透明性を確保したうえで、積極的に取り組むことのできる環境の育成に中長期的に取り組む際の論点が示された。

(5) わが国特有な問題であるが、監査プロフェッション・プロセス全体が公認会計士法の 規制の対象となり、同法の所轄官庁である金融庁による規制を受けているという点である。行政機関による「規制漬け」の状況は、少なくとも今回の研究で取り上げた 6 か国には見ることのないわが国特異の状況である。本研究は、そうした状況が潜在的に抱えている問題を個々に指摘するとともに、将来において監査規制の仕組みについて変革を模索する場合に考慮すべき論点を提示している。

(6) 監査規制に関する研究が今後一段と重要になるとの認識のもとに、監査研究者が取り組むべき監査規制に関する基本的な(fundamental)問題/課題を提示するとともに、その際に取り上げられるべき論点を提示している。

(7) 研究の成果は、2020 年 12 月に、研究代表者・研究分担者・研究協力者全員の共著として『監査の質に対する規制：監査プロフェッション vs 行政機関』を国元書房より上梓した。

<引用文献>

国内文献(主要文献に限定)

石村善助 [1969] 『現代のプロフェッション』至誠堂。

植草 益編 [1997b] 『社会的規制の経済学』NTT 出版。

監査人・監査報酬問題研究会 [2020] 『2020 年版 上場企業監査人・監査報酬実態調査報告書』ワーキング・ペーパーNo.2019-2 青山学院大学大学院会計プロフェッション研究センター (2020 年 3 月 31 日)。

金融庁・会計監査についての情報提供の充実に関する懇談会 [2019] 『会計監査に関する情報提供の充実について』(<https://www.fsa.go.jp/news/30/singi/20190122.html>)。

公認会計士・監査審査会 [2020]. 『令和 2 年版モニタリング・レポート』

https://www.fsa.go.jp/cpaob/shinsakensa/kouhyou/20200714/2020_monitoring_report.pdf.

佐伯 剛 [2019] 「監査現場の再生に向けて～この 10 年を振り返って～」『七十年史／公認会計士制度 70 周年記念誌編纂特別委員会編集』日本公認会計士協会近畿会 . 104-107 .

佐藤学・秋田喜代美(共訳) [2001] 『ドナルド・ショーン 専門家の知恵 - 反省的实践家は行為しながら考える』ゆみる出版 .(D. A. Schön [1983]. *The Reflective Practitioner: How Professionals Think in Action*. Basic Books. の抄訳.)

千葉準一 [1991] 『英国近代会計制度 その展開過程の探求』中央経済社 .

内藤文雄 [2020] 「PIE 企業に対するドイツ会計検査制度の概要と検査結果分析」『甲南経営研究』60 (4): 25-80.

永見尊・内藤文雄 [2020] 「法定監査に関する EU 規制：経緯・内容・実施状況」『三田商学研究』63-3: 13-33.

日本公認会計士協会 [2019] 『2018 年度品質管理委員会年次報告書』日本公認会計士協会 .

日本公認会計士協会 [2019] 『2018 年度品質管理レビューの概要』 .

町田祥弘 [2018] 『監査の品質』中央経済社 .

外国文献(主要文献に限定)

- Abbott, A. [1988]. *The System of Professions: An Essay on the Division of Expert Labor*. The University of Chicago Press.
- Abbott, A. [1988]. *The System of Professions: An Essay on the Division of Expert Labor*. The University of Chicago Press.
- Accountancy Europe [2018]. *Organisation of the Public Oversight of the Audit Profession in Europe, State of Affairs after the Implementation of the 2014 Audit Reform. (March)*.
- Adams, T. L. [2017]. Self-regulating professions: past, present, future. *Journal of Professions and Organizations*. 4 (1): 70-87.
- AFM [2014]. *Results of the Inspection of the Quality of Statutory Audits at the Big 4 Audit Firms*.
- AFM [2017]. *Quality of PIE Audit Firms: Findings of the Assessment of the Implementation and Embedding of Improvement Programmes at PIE Audit Firms and the Inspection of the Quality of Statutory Audits at the Big 4 Audit Firms*.
- American Accounting Association (AAA) [1973]. *A Statement on Basic Auditing Concepts*. American Accounting Association.
- Australian Securities and Investments Commission (ASIC). [2016]. *ASIC Regulatory Guide 180. Auditor registration*. June.
- Breyer, S. [1982]. *Regulation and Its Reform*. Cambridge, Massachusetts: Harvard University Press.
- Brydon, D. [2019]. *Assess, Assure and Inform: Improving Audit Quality and Effectiveness*.
- Cooper, D. J. and K. Robson [2006]. Accounting, professions and regulation: locating the sites of professionalization. *Accounting, Organizations and Society*. 31: 415-444.
- Dudley, S. E. and J. Brito [2012]. *Regulation: A Primer* (2nd ed). Arlington, Va: Mercatus Center, George Mason University.
- Elliott, P. [1972]. *The Sociology of the Professions*. Macmillan Press.
- European Parliament and the Council [2014]. Regulation (EU) No 537/2014 of the European Parliament and of the Council of 16 April 2014 on specific requirements regarding statutory audit of public-interest entities and repealing Commission Decision 2005/909/EC. *Official Journal of the European Union* L 158, 57: 77-112 (27 May, 2014).
- Financial Reporting Council [2019]. Investigations into the audit of the financial statements of Thomas Cook Group plc. [https://www.frc.org.uk/news/december-2019-\(1\)/investigations-into-the-audit-of-the-financial-sta](https://www.frc.org.uk/news/december-2019-(1)/investigations-into-the-audit-of-the-financial-sta)
- Francis, J. R. [2011]. A framework for understanding and researching audit quality. *Auditing: A Journal of Practice and Theory* 30 (2): 125-152.
- FRC [2015]. *Audit Quality: Practical aid for audit committees*. FRC.
- Freidson, E. [1994]. *Professionalism Reborn: Theory, Prophecy and Policy*. Polity Press.

- Freidson, E. [2001]. *Professionalism: The Third Logic*. The University of Chicago Press.
- Greenwood, E. [1957]. Attributes of a profession. *Social Work*. 2 (3): 44-55.
- ICAEW [2017]. *Audit Regulations and Guidance*. ICAEW.
- International Federation of Accountants (IFAC) [2014]. *A framework for audit quality: Key elements that create an environment for audit quality*.
- Kaufman, H. [1977]. *Red Tape: Its Origins, Uses, and Abuses*. (A Brooking Classic). The Brookings Institution Press.
- Kingman, J. [2018]. *Independent Review of the Financial Reporting Council*. APS Group.
- Macdonald, K. M. [1995]. *The Sociology of the Professions*. SAGE Publications Ltd.
- McKinnon, J. [1993]. Corporate disclosure regulation in Australia. *Journal of International Accounting Auditing & Taxation*. 2 (1): 1-21.
- Mautz, R. K. [1988]. Public accounting: which kind of professionalism? *Accounting Horizons*. 2 (3): 121-125.
- Palmrose, Z.-V. [1988]. An analysis of auditor litigation and audit service quality. *The Accounting Review* 64 (1): 55-73.
- Palmrose, Z.-V. [2010]. Balancing the costs and benefits of auditing and financial reporting regulation Post-SOX, part II: perspectives from the nexus at the SEC. *Accounting Horizons*. 24 (3): 487-507.
- Public Company Accounting Oversight Board (PCAOB) [2013]. *Discussion: Audit quality indicators*.
https://pcaobus.org//News/Events/Documents/05152013_SAGMeeting/Audit_Quality_Indicators.pdf
- The Panel on Audit Effectiveness (Panel) [2000]. *Report and Recommendations*. American Institute of Certified Public Accountants (AICPA), The Public Oversight Board.
- Perry, L. G. [1985]. The regulation of the accounting profession and the problem of enforcement. *The Journal of Comparative Business and Capital Market Law* 7 (3/4): 291-305.
- Schön, D. A. [1983]. *The Reflective Practitioner: How Professionals Think in Action*. UK Parliament. [2018]. Carillion.
<https://publications.parliament.uk/pa/cm201719/cmselect/cmworpen/769/76902.htm>
- Suddaby, R., D. J. Cooper, and R. Greenwood [2007]. Transnational regulation of professional services: governance dynamics of field level organizational change. *Accounting, Organizations and Society*. 32: 333-362.
- Thomas, H. and T. Qiu [2013]. Continuing professional development: accountability, autonomy, efficiency and equity in five professions. *British Journal of Educational Studies*. 61 (2): 161-186.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 小宮山 賢	4. 巻 59-3
2. 論文標題 リース会計基準の動向	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 証券アナリストジャーナル	6. 最初と最後の頁 51-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小宮山 賢	4. 巻 57巻2号
2. 論文標題 金融商品会計基準の改正をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 証券アナリストジャーナル	6. 最初と最後の頁 51-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永見 尊	4. 巻 194巻2号
2. 論文標題 証拠法における供述の信用性評価と財務諸表監査	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 会計	6. 最初と最後の頁 152-162
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 亀岡恵理子	4. 巻 5巻4号
2. 論文標題 監査に従事する個人が監査品質に与える影響についての予備的調査 日本の監査労働市場における個人特性の探索	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 経営論集	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永見 尊	4. 巻 69-9
2. 論文標題 財務諸表監査における質問の意義.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 企業会計	6. 最初と最後の頁 4-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永見 尊	4. 巻 69-10
2. 論文標題 刑事コロポにみる質問の技術と財務諸表監査	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 企業会計	6. 最初と最後の頁 4-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永見 尊	4. 巻 77-3
2. 論文標題 財務諸表監査における質問実施上の不備の分析	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 産業経理	6. 最初と最後の頁 98-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小宮山賢	4. 巻 72-4
2. 論文標題 特別損益の報告は改善されたか4月、税務経理協会、pp138-146	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 税経通信	6. 最初と最後の頁 138-146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hironori Fukukawa and Hyonok Kim	4. 巻 47-7
2. 論文標題 Hironori Effects of audit partners on clients' business risk disclosure	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Accounting and Business Research	6. 最初と最後の頁 780-809
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/00014788.2017.1299619	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 小宮山賢	4. 巻 55-11
2. 論文標題 解題 減損会計を考える	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 証券アナリストジャーナル	6. 最初と最後の頁 3-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小宮山賢	4. 巻 49
2. 論文標題 SPEに関する開示の国際基準比較	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 早稲田国際経営研究	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 間肅・亀岡恵理子・奥村j雅史	4. 巻 -
2. 論文標題 日本企業の会計基準選択行動 IFRS適用動機に関する先行研究レビューと日本の状況に基づく仮説構築	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 産研シリーズ	6. 最初と最後の頁 1-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 亀岡恵理子	4. 巻 80-3
2. 論文標題 監査パートナーによる監査品質マネジメント:プロセスの類型化と先行研究レビュー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 産業経理	6. 最初と最後の頁 68-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鳥羽至英	4. 巻 197-4
2. 論文標題 財務諸表監査には学術上、どのように接近したらよいのか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 會計	6. 最初と最後の頁 48-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福川裕徳	4. 巻 199-2
2. 論文標題 会計における不確実性と監査機能の変容	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 會計	6. 最初と最後の頁 40-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永見尊・内藤文雄	4. 巻 63-3
2. 論文標題 法定監査に関するEU規則	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 三田商学研究	6. 最初と最後の頁 13-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永見尊	4. 巻 30
2. 論文標題 英国における監査品質規制の構図	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代監査	6. 最初と最後の頁 25-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永見尊	4. 巻 197-3
2. 論文標題 監査証拠論における監査技術としての質問の意義	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 會計	6. 最初と最後の頁 309-321
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永見尊	4. 巻 61-1
2. 論文標題 監査における嘘発見技術応用の可能性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 三田商学研究	6. 最初と最後の頁 183-198
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 亀岡恵理子
2. 発表標題 監査に従事する個人が監査品質に与える影響についての予備的調査
3. 学会等名 日本会計研究学会第77大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 亀岡恵理子
2. 発表標題 日本企業はなぜIFRSを適用するのか?
3. 学会等名 日本会計研究学会第77大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 亀岡恵理子
2. 発表標題 Why do Japanese Firms Voluntarily Adopt IFRS?
3. 学会等名 Asia-Pacific Management Accounting Association 14th annual conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 亀岡恵理子
2. 発表標題 Firms' Voluntary IFRS Adoption and Network Effects
3. 学会等名 AAA International Accounting Section Midyear Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鳥羽至英
2. 発表標題 財務諸表監査に、監査学術上、どのように接近したらよいのか 監査実務に埋没する監査研究と監査研究を阻む制約
3. 学会等名 日本会計研究学会第78回大会 統一論題
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 福川裕徳
2. 発表標題 記録の信頼性に対する新技術の影響
3. 学会等名 日本簿記学会第34回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 福川裕徳、Hyonok Kim, and James Routledge
2. 発表標題 A Comparison of Management and Auditor Going Concern Risk Disclosure: Evidence from Regulatory Change in Japan
3. 学会等名 American Accounting Association Annual Meeting San Diego (USA), August 8, 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 福川裕徳
2. 発表標題 会計における不確実性と監査機能の変容
3. 学会等名 日本会計研究学会第79回大会 統一論題 オンライン開催
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 鳥羽至英・秋月信二	4. 発行年 2018年
2. 出版社 (株)国元書房	5. 総ページ数 230
3. 書名 監査を今、再び、考える。	

1. 著者名 福川裕徳・鳥羽至英・永見尊・鈴木孝則・林隆敏・大森一幸	4. 発行年 2018年
2. 出版社 国元書房	5. 総ページ数 336
3. 書名 SEC会計監査執行通牒1982年-1985年	

1. 著者名 安藤英義・新田忠誓・小宮山賢	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中央経済社	5. 総ページ数 308
3. 書名 森田哲弥学説の研究	

1. 著者名 秋月信二・岡嶋慶・亀岡恵理子・小宮山賢・鳥羽至英・内藤文雄・永見尊・福川裕徳	4. 発行年 2021年
2. 出版社 国元書房	5. 総ページ数 399
3. 書名 監査の質に対する規制 監査プロフェッションvs行政機関	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小宮山 賢 (Komiya Takashi) (00623117)	早稲田大学・商学大学院(経営管理研究科)・教授 (32689)	
研究分担者	秋月 信二 (Akizuki Shinji) (20134330)	埼玉大学・人文社会科学部研究科・名誉教授 (12401)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	亀岡 恵理子 (Kameoka Eriko) (30806295)	東北大学・経済学研究科・講師 (11301)	
研究分担者	永見 尊 (Nagami Takashi) (60275774)	慶應義塾大学・商学部（三田）・教授 (32612)	
研究分担者	福川 裕徳 (Fukukawa Hironori) (80315217)	一橋大学・大学院経営管理研究科・教授 (12613)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関